

特集

NHK大河ではわから

なかった

渋沢栄一翁 道民への“箴言”

メッセージ



「血洗島」を訪ねて

埼玉県深谷市は中山道の宿場町として栄え、昨年のNHK大河ドラマ『青天を衝け』の主人公・渋沢栄一の生誕の地だ。北部に利根川、南部には荒川が流れ、肥沃な土地に育つ「深谷ねぎ」が特産品だ。ドラマのクライマックスが近づいた2021年12月に深谷市の渋

沢栄一記念館を訪れた。記念館は下手計にあるが、生誕の地の「血洗島」という物騒な地名の由来については、次の2説が有力だ。〈平安時代に八幡太郎義家の奥州遠征の途中、付近で合戦があり家臣の一人が切り落とされた片手を洗った。そして土地の人がその手を近くに葬った〉

〈利根川の洪水による氾濫原のため、地を洗うように流れたという意味で地洗とか地荒（地が荒れるという意）と言われた。いつの間にか地



▲渋沢が幼少のころを過ごした中の家（なかんち）

2年後の2024年に20年ぶりに一新される1万円札の「顔」となる渋沢栄一翁。「日本の資本主義の父」と呼ばれた渋沢が設立、経営に参与した企業は国内で500社以上あり、道内でもサッポロビールのルーツとなる札幌麦酒株式会社など17以上の会社・団体にのぼる。渋沢に関係した道内ゆかりの地と栄一が生まれ育った埼玉県深谷市血洗島を訪れながら、道民への箴言（メッセージ）を聞いた。

（ジャーナリスト・黒田 伸）

が血となり、血洗島となった」

渋沢栄一記念館の近くの信号機には確かに「血洗島」とある。記念館は1995年にオープンし、渋沢の遺墨

や写真などが多数展示されている。

入口には「祝 渋沢栄一1万円札に」とプリントされたのぼりが立っていた。

「道徳経済合一説」とは

展示の目玉は「渋沢栄一アンドロイド」による「講義」だ。渋沢が生涯をかけて追い続けた「道徳経済合一説」が渋沢の肉声を元に合成され、高くしゃがれた声が流れる。それに合わせてアンドロイドの渋沢が身振り手振りで説明する。

「道徳経済合一説」とは、道徳と利益の追求は相反するものであると考えられがちだが、これらを両立させるこ

とができるはずだ、との考え方。利益を得ようとして道徳に反することを、例えば、遅かれ早かれ、利益が失われ事業がダメになり、逆にお金が少なければ道徳的に行動し続けることは難しく、事業は続かない。つまり「綺麗ごと」だけではそもそも続かないという経済の教えを説いている。

血洗島には渋沢の実家の「中の家」（なか

●あの「拓銀」も渋沢翁の肝いりだった…



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)